



丘の学園、信望が高まる理由

**前年より数多くの受験生が志願。
今春、鶴見大附属は、ますます熱気を帯びています。**

禅は、中世から守り継がれる日本文化の極み。その高邁な精神が支える中高は全国を見渡しても数校のみ。なかでも首都圏で唯一の共学校の名を覚えましょう。曹洞宗大本山、総持寺が開いた正統私学。世界的な禅の根本道場が通学路。朝、木漏れ日に包まれて歩のぼる制服姿は朗らか。鶴見大附属の生徒諸君です。

禅は、神仏に祈願して幸福を求める信教とは一線を画します。自身を築くのは自分自身。平和をもたらすのは自分自身。感謝の心を絶やさず、謙虚に努めよう。禅は、世界が称える和の礼節を涵養します。異なる他者を貴び、あたたかい真心をおくろう。禅は多様な民族が共生する「グローバル時代」に求められる根底の心構えを授けます。

中高では、信仰そのものを強いる場面は皆無。しかしながら、自ずと成長期の「真人」の生き方が心身に染みわたるでしょう。ここは、「合格」「就職」だけを志す訓練所ではない。ひたむきに内なる世界 (= 自己) を変革する。はつらつと外の世界とかかわり、未来を創造する。そのための「心」を磨くところです。

平成21年(2009年)、教育界が驚きました。新しく誕生した校舎は、「教科エリア+ホームベース型」。すべての教科、専用教室で学ぶスタイルは、2017年の今なお希少。14世紀のスピリットが宿る私学は、21世紀の先駆を担います。

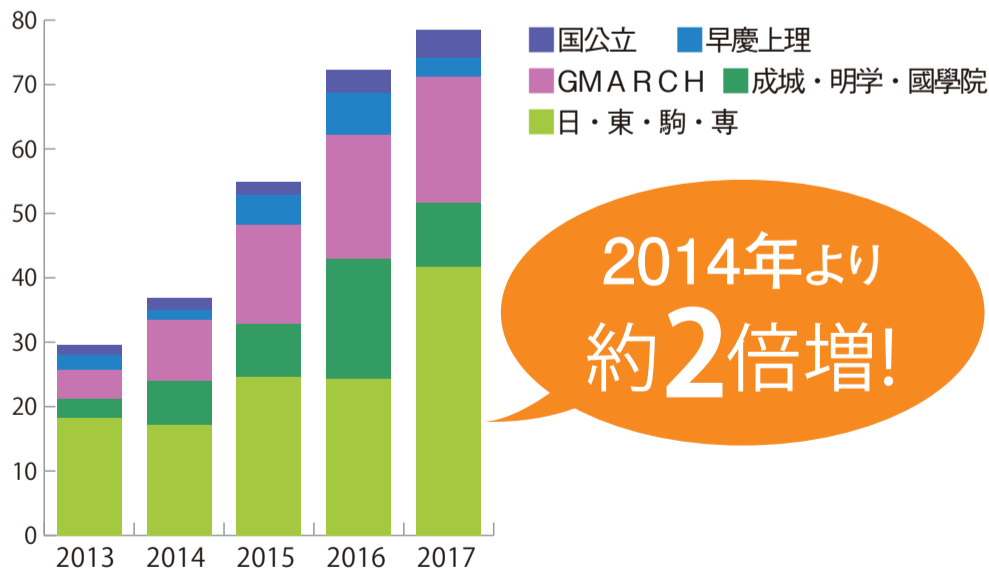
ホームルームは、朝礼や昼休みに集う学園生活の本拠。英語は英語ワールドへ、理科は理科ワールドへ。先生の登壇を待つばかりでは受け身。漫然と時間が過ぎて、気が付けば昼休み。自ら勇んで学びの舞台に向かえば心が弾んで、毎時間が高密度。「主体的学び」を導くために校舎設計から改める志に、鶴見大附属の神髄を見いだします。

2024年に100周年を祝います。大きな節目を間近に学園の基盤を確かめました。校舎設計の利点を精査。鮮やかな未来ビジョンを描きます。礎が強固な学園は、変容が著しい時代にあっても動じません。時々に対応しいノベーションを積み上げても崩れません。真摯に、誠実に、先進の教育を押し進めます。

禅の教えが支え、「教科エリア」型校舎を備える中高は全国にただ一つ。同類を見ない際立つ中高です。でも、花火を打ち上げません。大声で主張しません。慎ましい私学の声望は、在校生・卒業生の声を源に、口伝えに受験生の耳に届いたのでしょうか。子どもたちの心に宿る禅の精神が、ますます輝くときを待ち望みます。

自己を隠さず、精いっぱい表現しようではないか。中高期は失敗を重ねるからこそ育つ。日々、勇敢にチャレンジしよう。今日一日の目標を定めて、地道に成し遂げよう。総持寺の禅僧の姿に倣い、寝食のときにも心の深くを見つめて、一時を大切に、勤勉に自己を鍛えよう！学園に満ちる志気をあたためるのは、亀山校長先生。きっと、その柔和な眼差しこそが、信望を集める源です。

■ 主要大学の合格実績の推移 (現役合格、新卒学年在籍者数比)



12歳から新校舎で育った諸君が卒業を迎えるころから、大学進学実績が飛躍的に伸長。今後、さらに勢いを増すでしょう。ただし、学園の本願は、「合格者数増」ではありません。「感謝を忘れず、真人となる」。校訓に適う「人間」を育て上げてこそ、任務を全うします。